

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant: TAKEMURA et al.

Docket: 14470.0025US01

Title: STRUCTURE FOR MOUNTING FRONT FENDER

CERTIFICATE UNDER 37 CFR 1.10

'Express Mail' mailing label number: EV372669597US

Date of Deposit: February 27, 2004

I hereby certify that this paper or fee is being deposited with the United States Postal Service 'Express Mail Post Office To Addressee' service under 37 CFR 1.10 and is addressed to Mail Stop Patent Application, Commissioner for Patents, P.O. Box 1450, Alexandria, VA 22313-1450.

By: Teresa Anderson
Name: Teresa Anderson

Mail Stop PATENT APPLICATION
Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

SUBMISSION OF PRIORITY DOCUMENT

Dear Sir:

Applicants enclose herewith one certified copy of a Japanese application, Serial No. 2003-070229, filed March 14, 2003, the right of priority of which is claimed under 35 U.S.C. § 119.

Respectfully submitted,

MERCHANT & GOULD P.C.
P.O. Box 2903
Minneapolis, Minnesota 55402-0903
(612) 332-5300



Dated: February 27, 2004

By: Curtis B. Hamre
Curtis B. Hamre
Reg. No. 29,165

CBH:mmm

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 3 月 1 4 日
Date of Application:

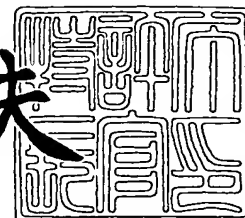
出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 0 7 0 2 2 9
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 3 - 0 7 0 2 2 9]

出 願 人 本 田 技 研 工 業 株 式 有 限 公 司
Applicant(s):

2 0 0 4 年 1 月 1 9 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 H103040301

【提出日】 平成15年 3月14日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 B62J 15/02

【発明の名称】 フロントフェンダの取付構造

【請求項の数】 5

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

【氏名】 竹村 浩生

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

【氏名】 中島 俊一

【特許出願人】

【識別番号】 000005326

【氏名又は名称】 本田技研工業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100064908

【弁理士】

【氏名又は名称】 志賀 正武

【選任した代理人】

【識別番号】 100108578

【弁理士】

【氏名又は名称】 高橋 詔男

【選任した代理人】

【識別番号】 100101465

【弁理士】

【氏名又は名称】 青山 正和

【選任した代理人】

【識別番号】 100094400

【弁理士】

【氏名又は名称】 鈴木 三義

【選任した代理人】

【識別番号】 100107836

【弁理士】

【氏名又は名称】 西 和哉

【選任した代理人】

【識別番号】 100108453

【弁理士】

【氏名又は名称】 村山 靖彦

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 008707

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9705358

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 フロントフェンダの取付構造

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 フロントフォークに設けたフロントフェンダ取付部に締結部材を介して前記フロントフェンダを取り付けるフロントフェンダの取付構造において、前記フロントフェンダ取付部に前記フロントフェンダと共に保持部材を前記締結部材により共締めし、この保持部材の先端部を前記フロントフェンダ取付部から離間した位置に延出して前記フロントフェンダ裏面を支持したことを特徴とするフロントフェンダの取付構造。

【請求項 2】 前記保持部材を前記フロントフェンダ取付部と前記フロントフェンダとの間に配設したことを特徴とする請求項 1 に記載のフロントフェンダの取付構造。

【請求項 3】 前記保持部材を前記フロントフェンダ取付部よりも内方に配設したことを特徴とする請求項 1 に記載のフロントフェンダの取付構造。

【請求項 4】 前記保持部材の先端部と前記フロントフェンダ裏面との間に弾性体を設けたことを特徴とする請求項 1 ～請求項 3 の何れかに記載のフロントフェンダの取付構造。

【請求項 5】 前記フロントフェンダ及び前記保持部材を弾性部材を介して前記締結部材により前記フロントフェンダ取付部に取り付けたことを特徴とする請求項 1 ～請求項 4 の何れかに記載のフロントフェンダの取付構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、自動二輪車等のフロントフェンダの取付構造に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

自動二輪車の中には、フロントフェンダに設けたフィンでフロントフォークを囲繞して空力特性を向上したものがある（例えば、特許文献 1 参照。）。

【0003】

【特許文献1】

実開昭62-166183号公報

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記従来技術においては、走行風の力を受けるフィンの性質上ある程度の剛性を確保するためにフィンの肉厚を増加したり、走行風から受ける力を減少させるためにフィンの傾斜をなだらかにせざるを得ず、その結果フィン形状が大きな制約を受け、設計の自由度が低いという課題がある。

そこで、この発明は、肉厚を増加したり、フィンの傾斜をなだらかにすることなくフィンの剛性を高めることを可能として、設計の自由度を高めることができるフロントフェンダの取付構造を提供するものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために、請求項1に記載した発明は、フロントフォーク（例えば、実施形態におけるフロントフォーク19）に設けたフロントフェンダ取付部（例えば、実施形態におけるフィン取付部73）に締結部材（例えば、実施形態におけるボルト79）を介して前記フロントフェンダ（例えば、実施形態におけるフロントフェンダ51）を取り付けるフロントフェンダの取付構造において、前記フロントフェンダ取付部に前記フロントフェンダ（例えば、実施形態におけるフィン55）と共に保持部材（例えば、実施形態における保持部材77）を前記締結部材により共締めし、この保持部材の先端部（例えば、実施形態における先端部772）を前記フロントフェンダ取付部から離間した位置に延出して前記フロントフェンダ裏面を支持したことを特徴とする。

このように構成することで、支持剛性の高いフロントフェンダ取付部に取り付けられた保持部材の先端部で、フロントフェンダ取付部から離間したフロントフェンダ裏面を支持してフロントフェンダの面剛性を確保することが可能となる。

【0006】

請求項2に記載した発明は、前記保持部材を前記フロントフェンダ取付部と前

記フロントフェンダとの間に配設したことを特徴とする。

このように構成することで、保持部材をフロントフェンダに近接して配置することが可能となる。

【0007】

請求項3に記載した発明は、前記保持部材（例えば、実施形態における保持部材78）を前記フロントフェンダ取付部よりも内方に配設したことを特徴とする。

このように構成することで、保持部材をフロントフォークの取付部及びフロントフェンダ取付部を飛び石等から保護するプロテクタとしても機能させることが可能となる。

【0008】

請求項4に記載した発明は、前記保持部材の先端部と前記フロントフェンダ裏面との間に弾性体（例えば、実施形態におけるゴムプレート91）を設けたことを特徴とする。

このように構成することで、フロントフェンダにかかる負荷を吸収しつつ、フロントフェンダの剛性を確保できる。

【0009】

請求項5に記載した発明は、前記フロントフェンダ及び前記保持部材を弾性部材（例えば、実施形態におけるゴム製のワッシャ93）を介して前記締結部材によりフロントフェンダ取付部に取り付けたことを特徴とする。

このように構成することで、フロントフェンダ取付部に可撓性を付与することができる。

【0010】

【発明の実施の形態】

以下、この発明の第1実施形態を図面と共に説明する。図1は自動二輪車の側面図である。自動二輪車1の車体フレーム3はヘッドチューブ5と、ヘッドチューブ5から斜め後方に延出するメインチューブ7と、メインチューブ7後端から下方に延出するセンターチューブ9と、メインチューブ7から後方に延出するシートレール11等を備えている。尚、図1はセンタースタンドSで車体を支持し

た状態を示す。

【0011】

前輪 13 はアウターケース 15 とインナーケース 17 からなる左右のフロントフォーク 19、19 で懸架支持され、各インナーケース 17 の上部はトップブリッジ 21 とボトムブリッジ 23 により支持され、ヘッドチューブ 5 に挿通されたステアリングステム 25 をトップブリッジ 21 とボトムブリッジ 23 に連結し、トップブリッジ 21 上に設けたハンドル 27 により前輪 13 を操舵する。

【0012】

エンジン 29 はメインチューブ 7 及びセンターチューブ 9 により支持され、後輪 31 はリヤフォーク 33 を介して支持され、エンジン動力によりドライブシャフト 35 を介して後輪 31 を駆動する。

前記メインチューブ 7 上には燃料タンク 37 が跨設され、シートレール 11 上にはシート 39 が配設され、エンジン 29 の斜め前方でフロントフォーク 19、19 の後方にラジエータ 41 が配設されている。

【0013】

ここで、この自動二輪車 1 は、車体の前部を覆うフロントカウル 43 と、フロントカウル 43 の上部に取り付けられるウインドスクリーン 45 と、車体側部を覆うサイドカウル 47 と、シート 39 の下方を覆うシートカウル 49 と、前輪 13 の上部を覆うフロントフェンダ 51 と、後輪 31 の上部を覆うリヤフェンダ 53 とを備えたフルカウリング形式の二輪車である。

【0014】

図 2 ～図 6 に示すように、前記フロントフェンダ 51 は前輪 13 の外周部周面に面する湾曲形成された上面部 51A と、前輪 13 の外周部側面に面する左右の側面部 51B とで形成されている。各側面部 51B、51B の前半部には、車幅方向の外側に前側から徐々に膨らむようにしてフロントフォーク 19 のアウターケース 15 の前面及び側面部分を覆うフィン（フロントフェンダ）55（左側のみを図示する）が形成されている。

【0015】

前記フィン 55 は下部後縁が斜め前側に向かって下がるように形成され、上下

方向に沿う折れ線部 55A の後方はほぼ平坦な形状となっていて、この平坦部 55B の下部に取付孔 75 が形成されている。

前記側面部 51B とフィン 55 との間にはアウターケース 15 を受け入れる受容部 57 が形成されている。この受容部 57 の上部であって、フロントフェンダ 51 の側面部 51B には 2 つの取付座 59、59 が形成され、この取付座 59、59 にアウターケース 15 に形成された取付フランジ部 61 がボルト 63 及びナット 65 により締め付け固定されている。

【0016】

前記アウターケース 15 の前側の取付フランジ部 61 の下方にはフロントフェンダ 51 のフィン取付部（フロントフェンダ取付部）73 が設けられている。このフィン取付部 73 は前記フィン 55 の下部に形成された取付孔 75 に対応する位置に形成されている。

前記フィン取付部 73 には、フロントフェンダ 51 のフィン 55 と共に保持部材 77 の基部 771 をボルト（締結部材）79 により共締めし、この保持部材 77 の先端部 772 をフィン取付部 73 から離間した位置、具体的にはフィン 55 の折れ線部 55A を跨ぎ前側に延出してフロントフェンダ 51 裏面、つまりフィン 55 の裏面を支持するようになっている。

【0017】

図 5、図 6 に示すように前記保持部材 77 はカラー部 81 と弾性部 83 とで構成された金属製の部材である。カラー部 81 は弾性部 83 の基部 771 に設けられ、前記ボルト 79 を挿通する部材であって、フロントフェンダ 51 の取付孔 75 に内側から挿通される。

弾性部 83 は基部 771 にカラー部 81 を備え先端部 772 に向かうほど先細り形状に形成され弾性効果を高めるようにした部材で、軽量化のために孔 87 が形成されている。この弾性部 83 はカラー部 81 の取付面からフロントフェンダ 51 のフィン 55 の形状に沿うようにして前側に向かうほど内側に湾曲し先端部 772 側には斜め内側を向いた面当接に好適な平坦部 89 を有している。尚、前記フロントフェンダ 51 と保持部材 77 との間にはフロントフェンダ 51 の内側への変位を許容する空間部 85（図 5 参照）が形成されている

【0018】

したがって、前記アウターケース15のフィン取付部73とフロントフェンダ51との間に保持部材77の基部771を挟み込むようにした状態で、フィン55の取付孔75に保持部材77のカラー部81を嵌挿し、フィン55の取付孔75、保持部材77のカラー部81にボルト79を挿通してアウターケース15のフィン取付部73の雌ネジ部74にボルト79を締め付けて固定されている。

【0019】

ここで、前記保持部材77の先端部772とフロントフェンダ51裏面との間にゴムプレート（弾性体）91が介装されている。このゴムプレート91は前記保持部材77の平坦部89とフロントフェンダ51の裏面との間に挟持されるものである。

また、前記フロントフェンダ51及び保持部材77はゴム製のワッシャ（弾性部材）93を介して前記ボルト79によりアウターケース15のフィン取付部73に締め付けられている。

【0020】

上記実施形態によれば、支持剛性の高いアウターケース15のフィン取付部73に取り付けられた保持部材77の先端部772で、フィン取付部73から離間したフロントフェンダ51裏面、具体的にはフィン55の裏面を支持してその面剛性を確保することが可能となるため、フロントフェンダ51、特にフィン55の肉厚を薄くすることができ、造形上の自由度、設計の自由度を高めることができる。したがって、フィン55の傾斜をなだらかにすることなく空力特性に優れたフィン55とすることができる。

【0021】

つまり、フィン55には走行風から作用する力によって折れ線部55Aに大きな応力が作用するが、この折れ線部55Aを跨いで設けた保持部材77により走行風から受ける荷重を分担できるため前記折れ線部55Aにかかる負荷を小さくすることができ、その結果フィン55を薄肉化して最適な形状にすることができるのである。

【0022】

前記保持部材 77 をフロントフォーク 19 のアウターケース 15 とフロントフェンダ 51 のフィン 55 との間に配設したので保持部材 77 をフロントフェンダ 51 に近接して配置することができ、保持部材 77 によりフロントフェンダ 51 の取付部近傍、つまり取付孔 75 周辺の剛性をも高めることができる。

【0023】

また、前記前記保持部材 77 の平坦部 89 とフロントフェンダ 51 のフィン 55 の裏面との間にゴムプレート 91 が介装されているため、フロントフェンダ 51 のフィン 55 にかかる負荷をソフトに吸収しつつ、フロントフェンダ 51 の剛性を確保できるため、フロントフェンダ 51 を安定して支持することができる。

更に、前記フロントフェンダ 51 のフィン 55 及び保持部材 77 はゴム製のワッシャ 93 を介して前記ボルト 79 によりアウターケース 15 のフィン取付部 73 に締め付けられているので、フィン取付部 73 に可撓性を付与することができるため、フロントフェンダ 51 のフィン 55 にかかる負荷を吸収しながら保持部材 77 によりフィン 55 自体及びフロントフェンダ 51 の剛性を確保することができる。

【0024】

次に、この発明の第 2 実施形態を図 7 に基づき、図 2 を援用して説明する。尚、第 1 実施形態と同一部分には同一符号を付して説明する。

この実施形態では、保持部材 78 をフロントフォーク 19 のアウターケース 15 よりも内方に配置したものである。つまり、この実施形態では第 1 実施形態のボルト 79 に替えて段付きボルト 80 を用い、アウターケース 15 のフィン取付部 73 の内側に保持部材 78 を配置しナット 95 により締め付けて、保持部材 78 が固定されている。この実施形態においても保持部材 78 は基部 781 がフィン取付部 73 に固定され先端部 782 は前側に延出してフロントフェンダ 51 のフィン 55 の裏面に当接し、フィン 55 を裏側から支持している。尚、この実施形態ではフィン取付部 73 には挿通孔 74A が形成されている。

【0025】

したがって、この実施形態によれば、保持部材 78 によりフィン 55 の面剛性を確保することが可能となるため、フロントフェンダ 51、特にフィン 55 の肉

厚を薄くすることができ、造形上の自由度、設計の自由度を高めることができると共に、更に保持部材 78 がフィン取付部 73 の内側に位置しているため、アウターケース 15 のフィン取付部 73 の挿通孔 74 A 回りや、フィン 55 の取付孔 75 回りに向かう飛び石等の飛散を保持部材 78 により阻止して傷付きを防止でき、保持部材 78 にプロテクタとしての機能を併せ持たせることができる点で有利である。

【0026】

尚、この実施形態においては別部材であるナット 95 を用いたが、ナット 95 を保持部材 78 に溶接したウエルドナットに替えることもできる。また、第 1 実施形態のように、保持部材 78 の基部 781 にカラー部を設け、このカラー部をアウターケース 15 のフィン取付部 73 の挿通孔 74 A に挿通してもよい。

【0027】

次に、この発明の第 3 実施形態を図 8 に基づき、図 2 を援用して説明する。尚、第 1 実施形態と同一部分には同一符号を付して説明する。

この実施形態は、第 1 実施形態の保持部材 77 をリフレクタの取付部材として有効利用したものである。この実施形態の保持部材 82 は、第 1 実施形態と同様に、カラー部 81 を有する基部 821 とフィン 55 の裏面をゴムプレート 91 を介して支持する先端部 822 を有すると共に、先端部 822 の反対側、つまり基部 821 から後方に延出するリフレクタ 97 の取付部 823 を備えている。

尚、この実施形態においても、ゴム製のワッシャ 93 を介してボルト 79 により保持部材 82 が前記アウターケース 15 のフィン取付部 73 とフィン 55 との間に取り付けられている。

【0028】

前記取付部 823 は、斜め前側にカットされたフィン 55 の下部後縁よりも後方に延出して外方に立ち上がる段付き部 824 を備え、この段付き部 824 の先端にリフレクタ 97 の取付孔 825 が形成されたものである。したがって、前記取付孔 825 にリフレクタ 97 の取付ボルト 99 を外側から挿通し、リフレクタ 97 を内側からナット 101 で締め付けてリフレクタ 97 が保持部材 82 に固定されている。

【0029】

したがって、この実施形態によれば、上記第1実施形態の効果に加え、保持部材82をリフレクタ97の取付部材として有効利用できるため、リフレクタ97の取付部材を別途設けた場合に比較して部品点数を削減できる。

尚、この発明は上記実施形態に限られるものではなく、例えば、第1実施形態の保持部材77は孔87を有しない形状のものでもよい。また、第2実施形態の保持部材78の先端部782とフィン55との間にゴムプレート91を介装させることができる。そして、支持剛性を確保するために肉厚を増加すると造形上の自由度が大きく制約を受けるフロントフェンダのフィンに適用した場合について説明したが、フロントフェンダ51の取付座59と、フロントフォーク19の OUTER ケース15の取付フランジ部61との取付部回りにも適用することができる。

【0030】**【発明の効果】**

以上説明してきたように、請求項1に記載した発明によれば、支持剛性の高いフロントフェンダ取付部に取り付けられた保持部材の先端部で、フロントフェンダ取付部から離間したフロントフェンダ裏面を支持してフロントフェンダの面剛性を確保することが可能となるため、フロントフェンダの肉厚を薄くすることができ、造形上の自由度、設計の自由度を高めることができる効果がある。

【0031】

請求項2に記載した発明によれば、保持部材をフロントフェンダに近接して配置することが可能となるため、保持部材によりフロントフェンダ取付部近傍の剛性をも高めることができる効果がある。

【0032】

請求項3に記載した発明によれば、保持部材をフロントフォークの取付部及びフロントフェンダ取付部を飛び石等から保護するプロテクタとしても機能させることが可能となるため、フロントフォークの取付部及びフロントフェンダ取付部の傷付きを防止できる効果がある。

【0033】

請求項 4 に記載した発明によれば、フロントフェンダにかかる負荷を吸収しつつ、フロントフェンダの剛性を確保できるため、フロントフェンダを安定して支持することができる効果がある。

【0 0 3 4】

請求項 5 に記載した発明によれば、フロントフェンダ取付部に可撓性を付与することができるため、フロントフェンダにかかる負荷を吸収しながら保持部材によりフロントフェンダの剛性を確保することができる効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 この発明の第 1 実施形態の自動二輪車の側面図である。

【図 2】 前記第 1 実施形態の要部分解斜視図である。

【図 3】 前記第 1 実施形態のフロントフェンダの部分側面図である。

【図 4】 図 3 の A - A 線に沿う断面図である。

【図 5】 図 3 の B - B 線に沿う断面図である。

【図 6】 保持部材の平面図である。

【図 7】 この発明の第 2 実施形態の図 5 に相当する断面図である。

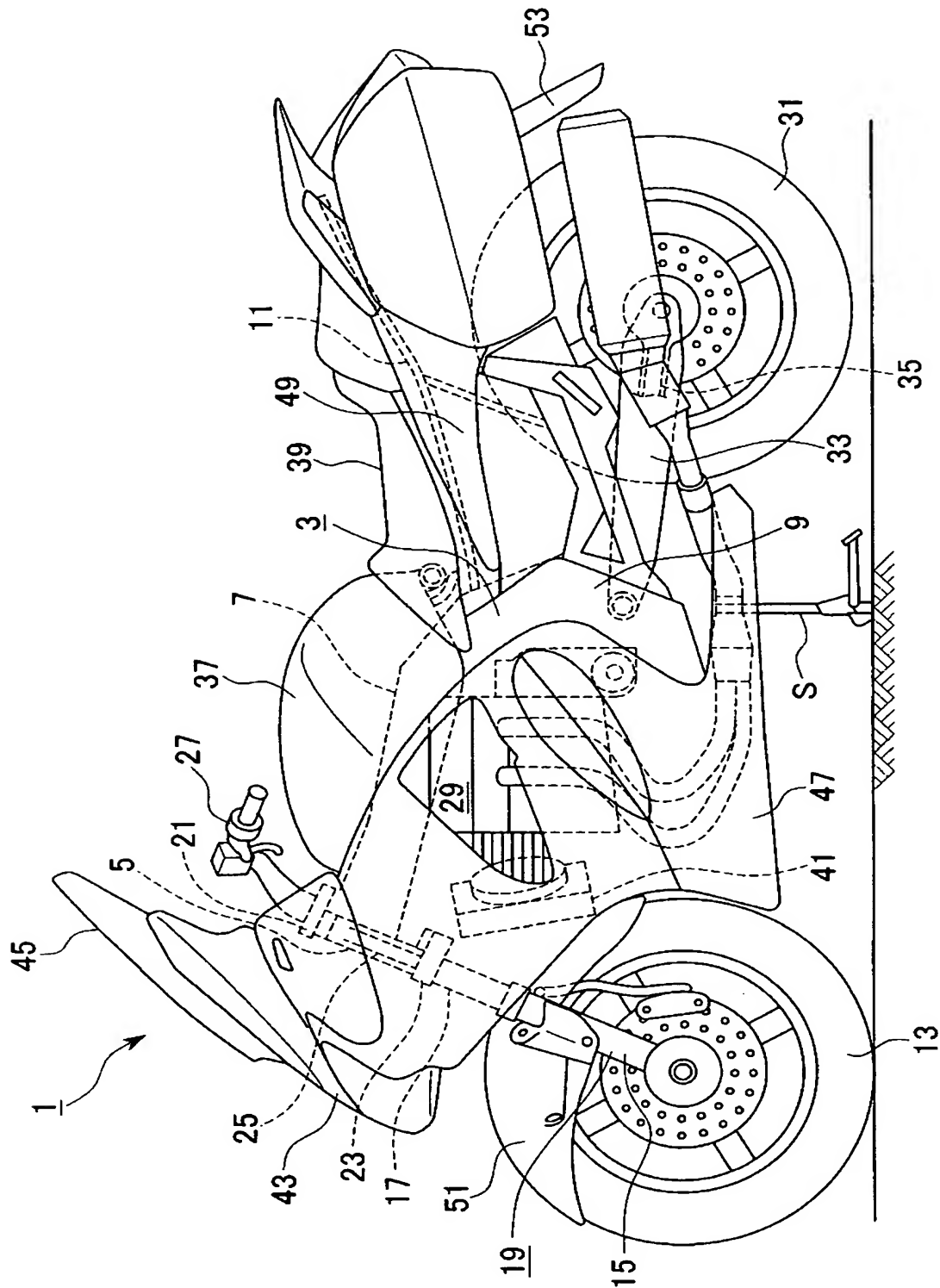
【図 8】 この発明の第 3 実施形態の要部分解斜視図である。

【符号の説明】

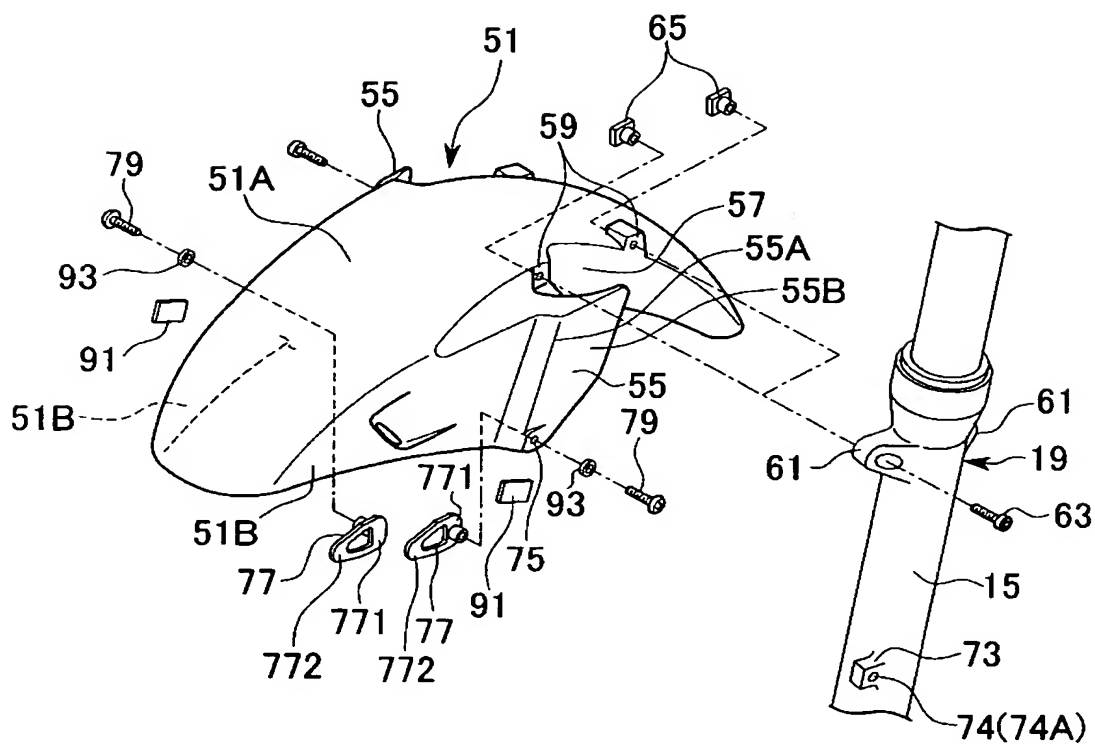
- 1 9 フロントフォーク
- 5 1 フロントフェンダ
- 5 5 フィン (フロントフェンダ)
- 7 3 フィン取付部 (フロントフェンダ取付部)
- 7 7、7 8、8 2 保持部材
- 7 7 2 先端部
- 7 9 ボルト (締結部材)
- 9 1 ゴムプレート (弾性体)
- 9 3 ゴム製のワッシャ (弾性部材)

【書類名】 図面

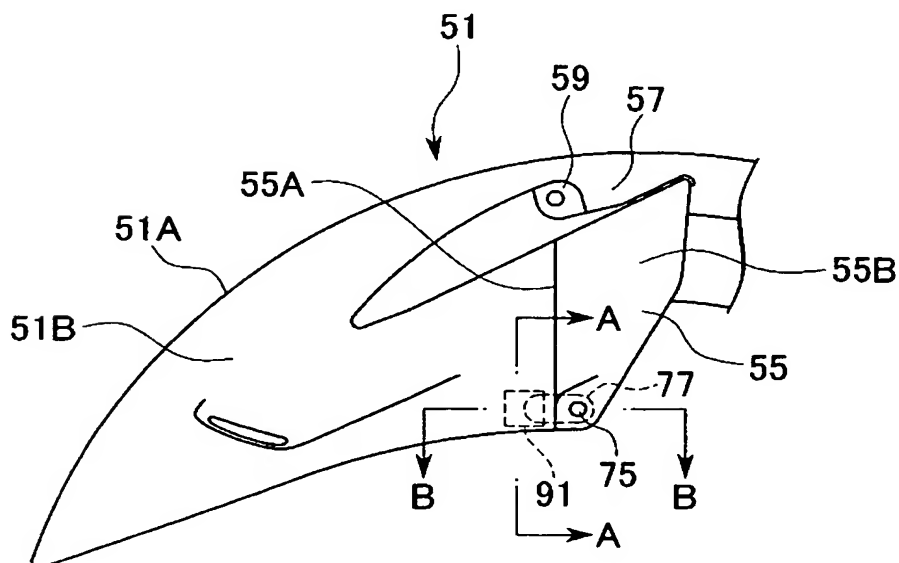
【図 1】



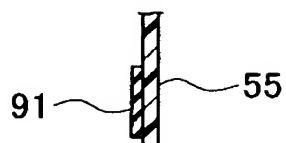
【図 2】



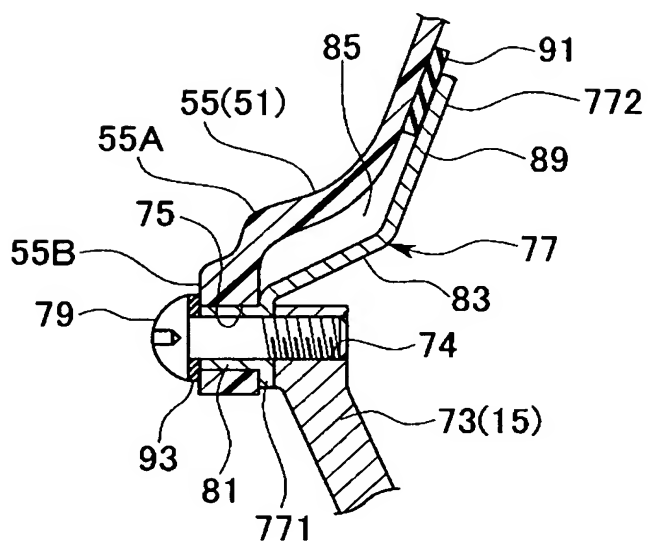
【図 3】



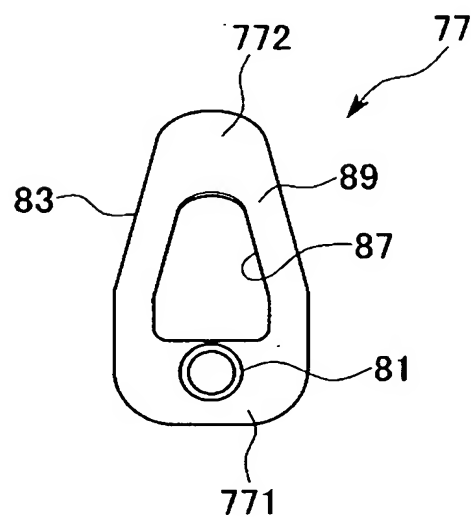
【圖 4】



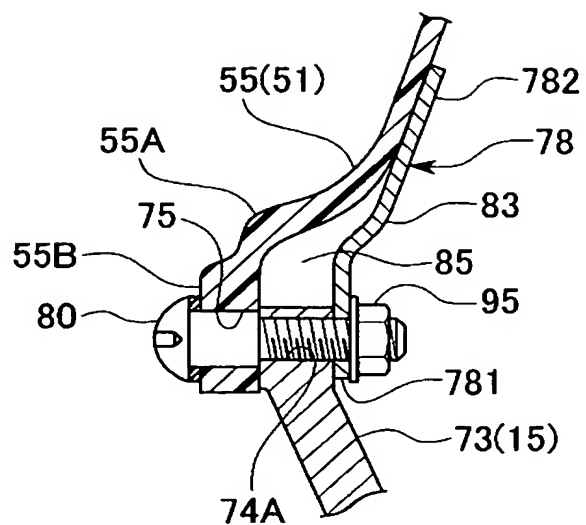
【図 5】



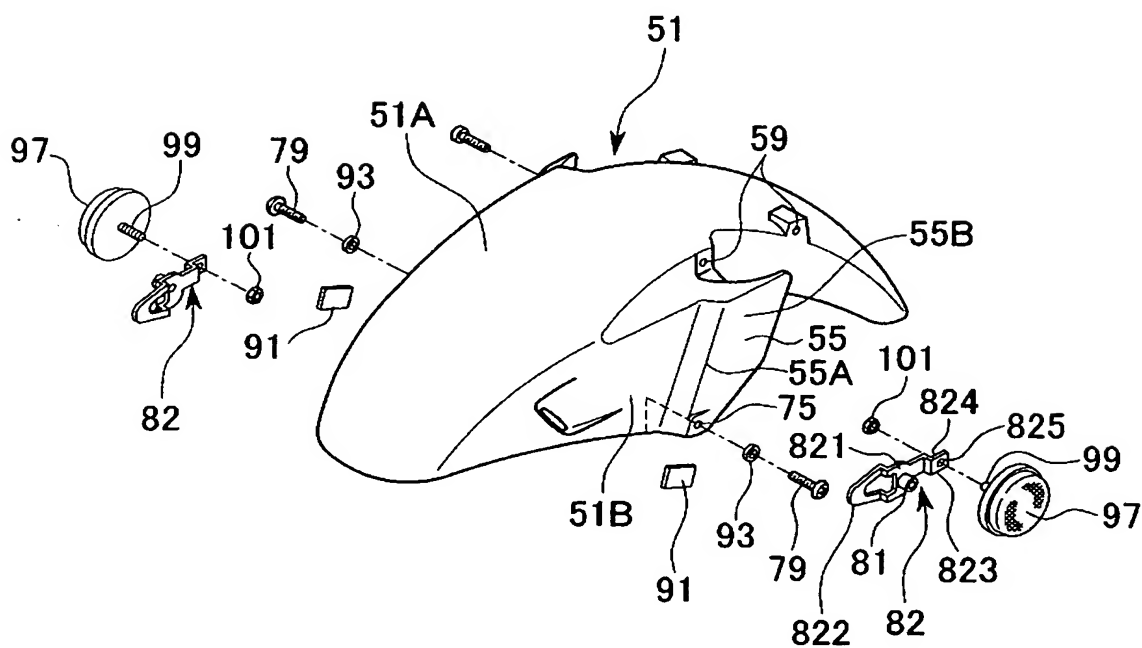
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 肉厚を増加したり、フィンの傾斜をなだらかにすることなくフィンの剛性を高めることを可能として、設計の自由度を高めることができるフロントフェンダの取付構造を提供する。

【解決手段】 フロントフォークに設けたフィン取付部 7 3 にボルト 7 9 を介してフロントフェンダ 5 1 のフィン 5 5 を取り付けるフロントフェンダの取付構造において、前記フィン取付部 7 3 にフィン 5 5 と共に保持部材 7 7 をボルト 7 9 により共締めし、この保持部材 7 7 の先端部 7 7 2 をフィン取付部 7 3 から離間した位置に延出してフィン 5 5 の裏面を支持した。

【選択図】 図 5

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 3 - 0 7 0 2 2 9
受付番号	5 0 3 0 0 4 2 3 0 0 5
書類名	特許願
担当官	第三担当上席 0 0 9 2
作成日	平成 1 5 年 3 月 1 7 日

< 認定情報・付加情報 >

【特許出願人】

【識別番号】	000005326
【住所又は居所】	東京都港区南青山二丁目 1 番 1 号
【氏名又は名称】	本田技研工業株式会社

【代理人】

申請人

【識別番号】	100064908
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	志賀 正武

【選任した代理人】

【識別番号】	100108578
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	高橋 詔男

【選任した代理人】

【識別番号】	100101465
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	青山 正和

【選任した代理人】

【識別番号】	100094400
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	鈴木 三義

【選任した代理人】

【識別番号】	100107836
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ ル 志賀国際特許事務所

次頁有

認定・付加情報 (続き)

【氏名又は名称】 西 和哉
【選任した代理人】
【識別番号】 100108453
【住所又は居所】 東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 ORビ
ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】 村山 靖彦

次頁無

特願 2 0 0 3 - 0 7 0 2 2 9

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 5 3 2 6]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 9 月 6 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都港区南青山二丁目 1 番 1 号

氏 名

本田技研工業株式会社